

2017. 10. 6

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2017年 第2四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2017年第2四半期)

2017年4-6月のわが国の景気は個人消費などの国内需要が堅調に推移し、緩やかな上昇基調を辿った。

このような中、化繊景況は衣料用が全般低調、産業資材用はエアバッグ用などの自動車関連が堅調に推移した。化繊生産は23.2万トン・前年同期比0.1%増となった。

国 内

- 1) 衣料用途は、婦人服は消費不振の影響で低調。ユニフォーム・ワーキング用は在庫調整が進み需要が安定した。保温肌着用は大手SPA向けが順調だったが、GMS（総合スーパー）向けは不振。中東民族衣装向けは原油安による現地の消費減退で数量減となった。インテリア用途は、カーペットが足元一服だがオフィスビルの完工に期待。カーテンはコントラクト需要が安定しているが、ホームユース用が低調。衛材用途は、紙おむつの中国向け製品輸出が回復して堅調。生活資材用途は、コスメ・スキンケア商品、制汗シート向けが堅調だったが、貼布剤用は苦戦が続いた。自動車関連用途は、エアバッグ用が好調に推移、タイヤコード用はポリエステル使いの織物・強力糸の高水準の輸入が続いた。カーシート用は自動車の生産が前年比増となり順調に推移。土木資材用途は、一部で荷動きが出てきた。建築資材用途は、一服気味だが都市再開発事業の活発化で今後に期待できる。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年同期比（以下同じ）0.5%減、化繊 2.5%減、紡績 0.1%減。在庫指数（6月末）は、繊維工業全体が前年同月比（以下同じ）2.6%減、化繊 6.1%減、紡績 7.8%増。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで19.9億ドル・前年同期比（以下同じ）3.9%減、円ベースでは2,207.0億円・1.3%減。形態別（ドルベース）は、繊維原料2.3億ドル・23.3%減、糸類2.8億ドル・1.5%増、織物類6.3億ドル・5.6%減、二次製品他8.4億ドル・3.0%増。仕向地別（ドルベース）では、全体の31.2%を占めた中国が2.0%減の6.2億ドル、韓国（1.6%増）、香港（14.7%減）、台湾（2.3%減）、アセアン地域はベトナム（0.4%増）、タイ（1.7%増）、インドネシア（15.5%減）・マレーシア（5.2%減）、それ以外では、欧州（9.1%減）、米州（4.6%増）西アジア（13.5%減）となった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで80.0億ドル・前年同期比（以下同じ）0.3%増、一方円ベースでは8,886.4億円・2.9%増。形態別（ドルベース）は、繊維原料1.6億ドル・6.4%増、糸類3.0億ドル・2.6%減、織物3.5億ドル・1.6%減、二次製品他72.0億ドル・0.4%増。仕出地別（ドルベース）では、全体の59.7%を占めた中国が0.5%減の47.8億ドル、韓国（4.4%減）、台湾（3.1%増）、アセアン地域は、ベトナム（4.4%増）、インド

ネシア（1.1%増）、タイ（0.8%減）、マレーシア（20.4%増）、それ以外では、イタリア（2.4%減）、米国（1.0%増）となった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2015.4-6	2016.4-6	2017.4-6	2016年比(%)	2015年比(%)
輸出	千ドル	2,079,485	2,067,535	1,987,927	-3.9	-4.4
計	百万円	252,327	223,581	220,704	-1.3	-12.5
繊維原料	千ドル	411,379	304,953	233,906	-23.3	-43.1
糸類	〃	266,155	275,154	279,326	1.5	4.9
織物類	〃	662,745	667,267	629,848	-5.6	-5.0
二次製品他	〃	739,207	820,161	844,847	3.0	14.3
輸入	千ドル	7,952,519	7,977,545	8,004,332	0.3	0.7
計	百万円	964,146	863,269	888,639	2.9	-7.8
繊維原料	千ドル	151,592	148,643	158,087	6.4	4.3
糸類	〃	313,663	309,095	301,080	-2.6	-4.0
織物類	〃	364,468	352,423	346,834	-1.6	-4.8
二次製品他	〃	7,122,798	7,167,385	7,198,333	0.4	1.1
(うち衣類)	〃	(5,825,845)	(5,834,358)	(5,817,727)	-0.3	-0.1
輸出レート	円/ドル	121.3	108.1	111.0	2.7	-8.5
輸入レート	円/ドル	121.2	108.2	111.0	2.6	-8.4

(出所) 財務省

5) 化繊生産は23万2,305トン・前年同期比(以下同じ)0.1%増、うちセルロース繊維4万4,946トン・19.2%増、合繊18万7,359トン・3.6%減となった。期末(6月末)在庫は8万7,592トン・5.8%減、うちセルロース繊維1万9,220トン・26.8%増、合繊6万8,372トン・12.1%減であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は13.8万トン・前年同期比(以下同じ)6.9%減。うち、繊維原料5.2万トン・19.5%減、糸類3.1万トン・3.6%増、織物類(面積ベース)1.60億㎡・2.2%減、二次製品2.9万トン・6.2%増となった。品種別では、レーヨンS6.3%減、ナイロンF7.0%増、ポリエステルF7.0%増、ポリエステルS31.2%減、アクリルS7.3%減、織物類(面積ベース)はナイロンF織物4.7%増、ポリエステルF織物2.9%減、ポリエステルS織物11.6%減であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は35.0万トン・前年比1.3%増。うち、繊維原料2.4万トン・17.3%増、糸類5.7万トン・1.8%増、織物類(面積ベース)は1.54億㎡・2.9%増、二次製品23.8万トン・0.4%減、うち衣類9.3万トン・7.6%減となった。品種別では、レーヨンS11.9%増、ナイロンFは11.9%減、ポリエステルF6.5%増、ポリエステルS31.5%増、ポリエステル紡績糸0.6%増、織物類(面積ベース)はポリエステルF織物0.9%増、ポリエステルS織物0.03%増であった。

化学繊維の主要指標

項目	単位	2015. 4-6	2016. 4-6	2017. 4-6	2016年比 (%)	2015年比 (%)
化繊生産	千トン	243.3	232.0	232.3	0.1	-4.5
セルロース	〃	40.2	37.7	44.9	19.2	11.9
合 織	〃	203.1	194.3	187.4	-3.6	-7.8
化繊在庫	〃	92.6	93.0	87.6	-5.8	-5.4
セルロース	〃	15.8	15.2	19.2	26.8	21.6
合 織	〃	76.8	77.8	68.4	-12.1	-11.0
化繊輸出	千トン	167.1	148.0	137.8	-6.9	-17.5
	100万ドル	1,339.9	1,286.2	1,221.3	-5.1	-8.8
	億円	1,625.4	1,391.4	1,355.9	-2.6	-16.6
繊維原料	千トン	84.5	64.2	51.7	-19.5	-38.9
糸 類	〃	29.3	29.8	30.9	3.6	5.4
織物類	百万㎡	168.1	163.5	159.9	-2.2	-4.9
二次製品	千トン	26.3	27.1	28.8	6.2	9.3
化繊輸入	千トン	323.8	345.7	350.1	1.3	8.1
	100万ドル	3,360.7	3,503.1	3,313.5	-5.4	-1.4
	億円	4,075.3	3,790.4	3,678.7	-2.9	-9.7
繊維原料	千トン	14.9	20.2	23.7	17.3	59.3
糸 類	〃	55.0	55.5	56.5	1.8	2.8
織物類	百万㎡	166.5	150.0	154.4	2.9	-7.3
二次製品他	千トン	221.7	239.0	238.1	-0.4	7.4
(うち衣類)	〃	(96.3)	(100.8)	(93.2)	-7.6	-3.2

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

<ポリエステルF>

2017年第2四半期のポリエステルフィラメントの生産は3万1,127トン・前年同期比2.5%減、6月末在庫は1万666トン・前年同月比4.7%減。

衣料用はファッション衣料分野で合繊の機能が評価されてきたが消費不振の影響で低調。ブラックフォーマルは主力の百貨店・専門店向けが盛り上りに欠けた。中東向け民族衣装「アバヤ」は原油安による現地の消費低迷に加え、中韓品との競合が激化して苦戦。裏地は差別化素材が順調だが全般的には低調。競泳用水着は東京五輪に向けて機能品に期待。ランニングウェア用はブランド商品化が課題。「ヨガ」用のニットは堅調に推移。タイヤコード用は織物・強力糸ともに高水準の輸入が続き、殆どが海外からの調達。シートベルト用は国内の自動車生産が昨年末から前年比増に転じたこともあり順調、カーシート用も同様に自動車の生産回復により底堅く推移した。カーテンは学校、ホテル向けなどのコントラクト需要は順調だが、家庭用は在庫調整入りして低調。土木関係は在庫調整が進み一部で動きが見られた。建築

関係は足元が一服気味だが首都圏の都市再開発活発化を背景に今後需要増が見込める。除染処理用のフレコン向けは更新需要が一巡して荷動きが低調。

フィラメント輸出：3,766 トン・前年同期比 7.0%増、フィラメント輸入：3万5,261 トン・6.5%増。

<ポリエステルS>

2017年第2四半期のポリエステルステープルの生産は2万3,830 トン・前年同期比 17.5%減、6月末在庫は1万3,099 トン・前年同月比 35.3%減。

紡績：綿混糸使いのユニフォーム・ワーキング向けは在庫調整が完了し安定した動きへ。中東民族用（トープ）輸出は原油安による現地の消費減退で低調。

製綿：流通段階での在庫過多に加え、春・夏物の店頭販売が鈍く全般盛り上がりには欠けた。原綿輸入の大幅増が続くなか、製綿用の多くは中国の再生メーカー品と思われる。

不織布：衛材用の紙おむつは中国向け製品輸出が回復して堅調、インバウンド需要が下火になり代わって「越境EC」が拡大。生活資材用はワイパー向けの差別化品、コスメ・スキンケア商品や制汗シート向けなどが堅調に推移。貼布剤は薬価改定に加え、病院での支給枚数制限の影響で低迷。車両用は吸音材などが堅調。湿式不織布はRO膜支持体用が需要のピークを迎えた中国の家庭浄水器向けに好調だった。

ステープル輸出：3,760 トン・前年同期比 31.2%減、ステープル輸入：1万6,543 トン・31.5%増。

<ナイロンF>

2017年第2四半期のナイロンフィラメントの生産は2万4,361 トン・前年同期比 7.2%増、6月末在庫は1万1,513 トン・前年同月比 1.9%減。

衣料：パンストはインバウンドの需要が下火になった。ハイテンションニットは国内向けが消費不振で低調、中国向け輸出は低価格品との競合激化で苦戦。高密度織物の欧州向け輸出は在庫整理が進み堅調、米国向けは小売店舗の販売不振で低調。国内アウトドア向けは「直営店堅調、一般専門店低調」などまだら模様の展開が続く全般は低調。

非衣料：ラジアルタイヤ向けキャッププライ用は順調に推移。オフロード車向けバイアスタイヤは建機用や中国向け農機具タイヤ用が好調。高耐熱性ナイロン使いの航空機タイヤ用は順調に推移。エアバッグ用は世界的な装着部位の拡大により原糸輸出が好調に推移し、タカタのリコール特需でエアバッグ製品の国内生産や輸入の増加が続いた。タイルカーペットはオフィスビルや大型商業施設向けが期待できそう。車両用は、オプションマット向けが堅調。

フィラメント輸出：1万623 トン・前年同期比 7.0%増、フィラメント輸入：6,449 トン・11.9%減。

<アクリルS>

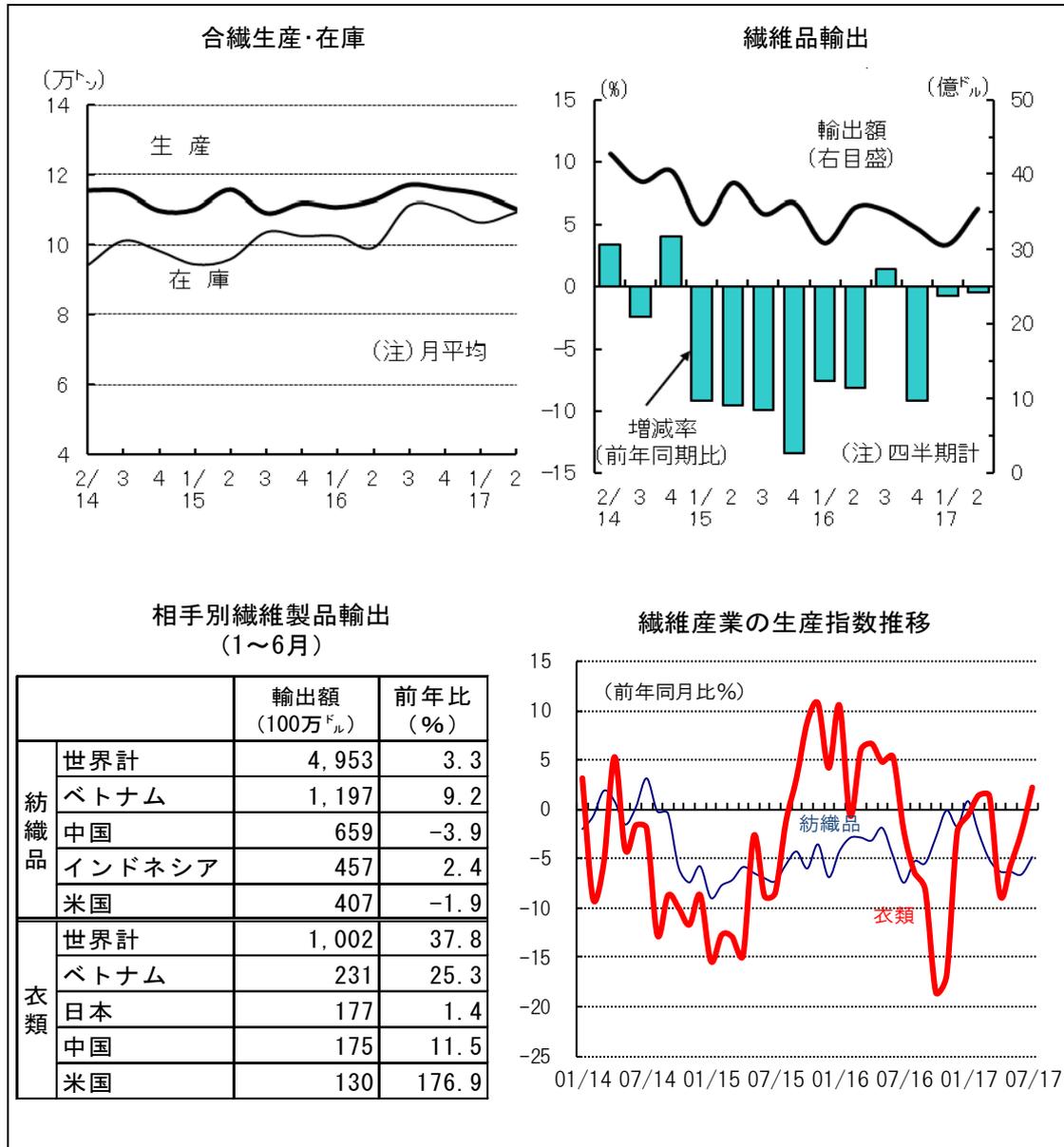
2017年第2四半期のアクリルステーブルの生産は3万3,881トﾝ・前年同期比5.1%減、6月末在庫は1万942トﾝ・前年同月比5.2%増。

衣料用：保温肌着用は大手SPA向けの出荷が安定、従来品に比較して2倍超暖かい新商品に期待。一方GMS向けは不振が続き、消費者の購入先が大手SPAに集中してきた。セーター用は、大手SPA向けが少量ながら徐々に増加、靴下向けは大手SPAの売り場縮小などで不振だった。

建寝装用他：毛布は長期低落傾向が続き、国産アクリル使いはごく僅かになった。カーペット関係も長繊維化が進み不振が続いた。

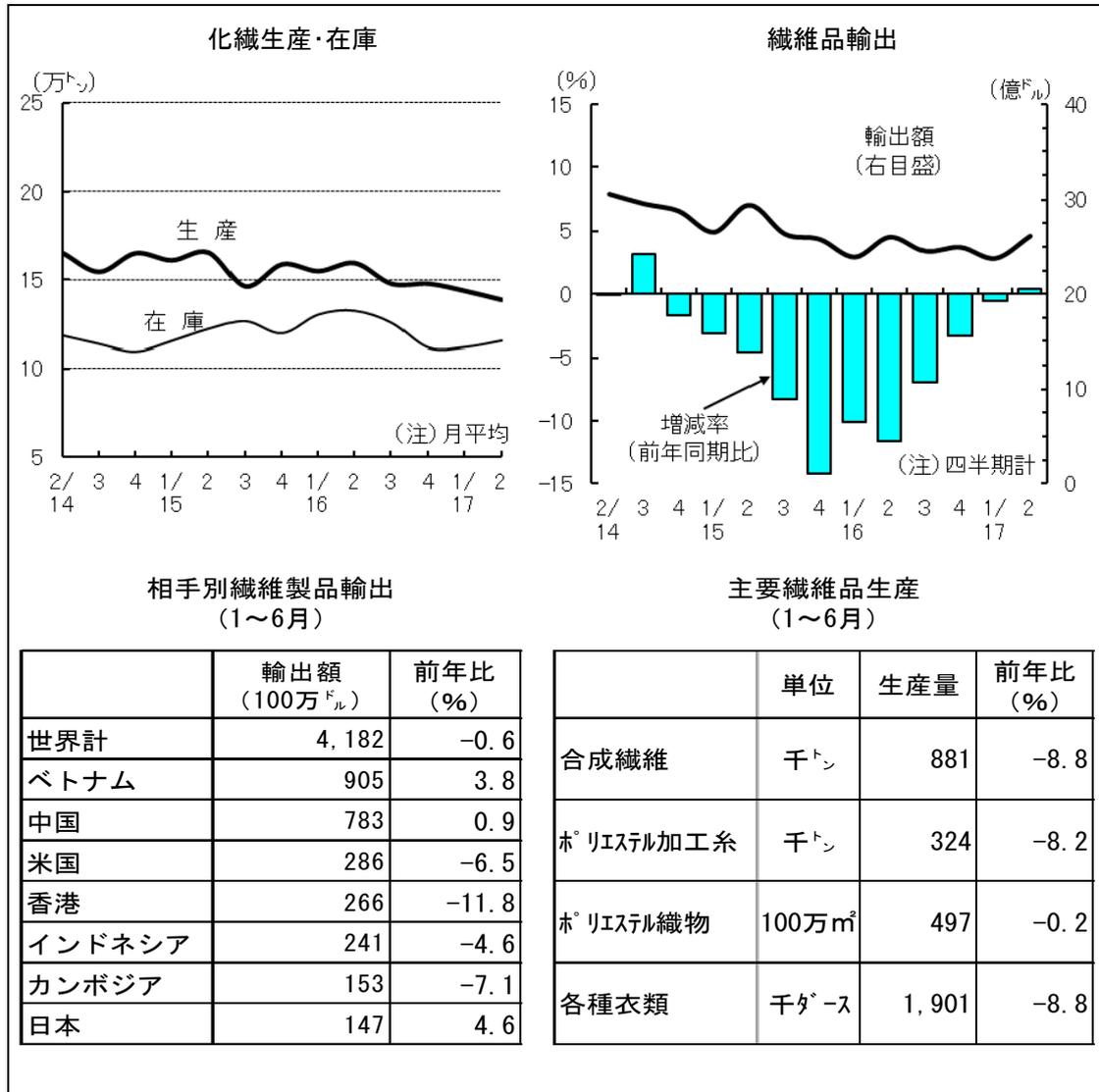
輸出：中国向けは1万6,269トﾝ・前年同期比（以下同じ）9.8%増と、好調なエコファーの再輸出を背景に徐々に回復した。中国国内で積み上がった在庫は再輸出需要の盛り上がりで消化が進んだ模様で、これからの中国内需用に期待。インドネシアは1,914トﾝ・16.0%減。イランは1,202トﾝ・45.8%増となり、13年から3年間皆無の状況が続いたあと16年5月に復活した。

7) 韓国



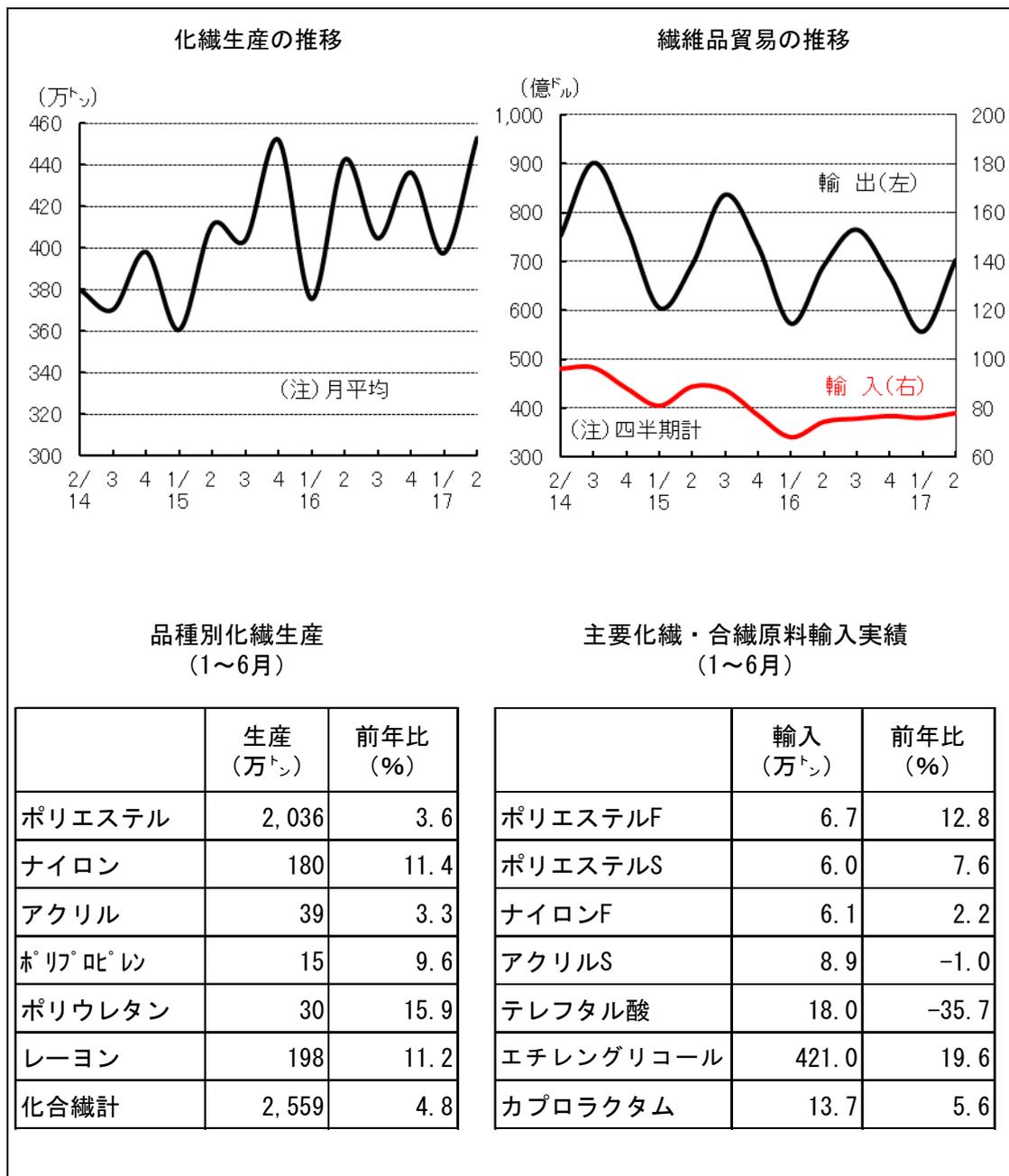
- ◆ 化繊生産は4期ぶりの減産、繊維品輸出は3期連続で減少した。
- ◆ 第2四半期の合繊生産は前年同期比2.1%減の33.1万トとなった。主要合繊では、ナイロンFは同8.1%減、ポリエステルFは同3.5%減、アクリルSは同2.2%減となったが、ポリエステルSは同0.6%増となった。期末在庫は同8.5%増であった。
- ◆ 第2四半期の繊維品輸出は前年同期比0.4%減の35.5億ドルとなった。繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品は最大のベトナム向けが同9.2%増となったが、中国向けは減少。衣類は、最大のベトナム向けが25.3%増と大幅に増加した。
- ◆ 2017年の繊維品の生産指数をみると、紡織産業は一貫して下落、衣類産業は一進一退の状況となっている。

8) 台湾



- ◆化繊生産は3期連続の減産、繊維品輸出はわずかながら11期ぶりの前年実績増となったが、全般的には低迷が続いている。
- ◆第2四半期の化繊生産は前年同期比13.2%減の41.5万トンとなった。主力のポリエステルFは同11.0%減、ナイロンFは同18.6%減、ポリエステルSは同4.0%減、アクリルSは同38.3%減といずれも前年実績を下回った。
- ◆第2四半期の繊維品輸出は前年同期比0.4%増の26.1億ドルとなった。1～6月の繊維品輸出を相手別にみると、ベトナム向けは同3.8%増、中国向けは同0.9%増となったが、米国向けは同6.5%減、香港向けは同11.8%減と減少した。
- ◆1～6月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は前年同期比8.2%減、ポリエステル織物は同0.2%減、衣類は同8.8%減といずれも減少となった。

9) 中国



- ◆ 化繊生産は増産が続き、繊維品輸出も回復に転じている。
- ◆ 第2四半期の化繊生産は前年同期比 10.2%増の 1,358 万トンとなった。1~6月の化繊生産は同 4.8%増の 2,559 万トン。品種別には、ポリエステルは同 3.6%増、ナイロンは同 11.4%増、アクリルは同 3.3%増、ポリウレタンは同 15.9%増、レーヨンは同 11.2%増となった。なお、1~6月の紡績糸生産、織物生産は 5.1%増、4.5%増となった。
- ◆ 第2四半期の繊維品輸出は前年同期比 1.6%増の 703 億ドル、7期ぶりの増加となった。一方、輸入は同 4.8%増の 78 億ドルとなった。
- ◆ 1~6月の合繊原料輸入は、テレフタル酸は前年同期比 35.7%の大幅減となったが、エチ

レングリコール、カプロラクタムは増加した。

相手別繊維製品輸出 (1~6月)			繊維業界の主要指標 (1~6月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	1,243	0.0	企業数	万社	3.54	-
アジア計	555	-3.0	赤字企業数	万社	0.51	-0.9
日本	92	-0.5	主要業務収入	億元	35,999	9.5
香港	60	-16.4	うち化繊産業	億元	4,154	15.1
アセアン	163	-1.9	利潤総額	億元	1,837	11.3
ベトナム	58	-5.9	うち化繊産業	億元	200	53.1
EU	223	-1.6	繊維産業実際投資	億元	5,996	9.4
米国	202	1.0	うち化繊産業	億元	631	20.3

社会小売財消費総額 (1~6月)				繊維関連物消費者物価指数 (1~6月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	156,138	10.3	消費者価格指数・全製品	1.9
うち繊維品等	億元	6,816	7.0	消費者価格指数・衣類等	1.4

- ◆1~6月の相手別の繊維製品輸出は、全体で前年同期比横ばいとなった。アジア向けは3.0%減、そのうち、日本向けは同0.5%減とわずかながら続落、香港向けは16.4%の大幅減、ベトナム向けは同5.9%の減となった。欧米向けは、EU向けは同1.0%減、米国向けは同1.0%増となった。
- ◆1~6月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は前年同期比9.5%増、利潤総額は同11.3%増と引続き堅調であった。化繊産業は、主要業務収入、利潤総額はそれぞれ同15.1%増、同53.1%増と光緒に推移した。繊維産業の投資は前年同期比9.4%増、そのうち化繊産業は20.3%の大幅増となった。
- ◆1~3月の衣料用内需は前年同期比7.0%増と引続き堅調に推移した。衣類等の消費者物価指数は前年同期比1.4%上昇した。

10) 米 国

・合織生産

2017年1～8月の合織生産は前年同期比1.4%増の197.0万トンであった。用途別では好調であったカーペット用でポリエステルFが依然増加基調であるのに対し、ナイロンFでは素材代替の進行により減少した。

主要品種別にみると、ナイロンFは産資用が7.6%減、カーペット用が5.9%減、紡織用が2.7%減といずれの用途も減少し、全体で6.0%減の34.5万トンとなった。

一方、ポリエステルFは、紡織用が5.4%減、産資用が0.2%減と減少したものの、主用途のカーペット用が7.3%増と大幅に増加したことから、全体で3.2%増の44.4万トンとなった。ポリエステルSは3.4%増の44.4万トン。不織布用を中心に増加した。

オレフィンFは3.2%増の62.8万トン。品種別出荷の内訳は、モノフィラメント・スパンボンド・フィルムファイバーが2.4%増、マルチフィラメントヤーンが4.4%増となった。オレフィンSは2.1%増の10.8万トンと増加した。

主要合織の生産高（1～8月）

	(1000トン)		
	2016	2017	前年比(%)
ナイロンF	367.0	345.1	-6.0
産資用	45.1	41.6	-7.6
カーペット用	304.9	286.9	-5.9
紡織用	17.1	16.6	-2.7
ポリエステルF	430.6	444.2	3.2
産資用	49.4	49.4	-0.2
カーペット用	270.1	289.8	7.3
紡織用	111.0	105.1	-5.4
ポリエステルS	430.0	444.4	3.4
オレフィンF	608.9	628.2	3.2
オレフィンS	106.0	108.1	2.1
合織計	1,942.5	1,970.0	1.4

(出所) Fiber Review

・輸 入

2017年の1～7月の繊維製品輸入は前年同期比1.4%減の594.7億ドルとなった。仕出地別にみると、最大仕出国の中国が3.3%減の207.0億ドルと減少したのに対し、ベトナムが5.4%増の68.7億ドル、インドが3.0%増の45.3億ドルと増加した。

上記の繊維品全体に対し、衣料輸入は1.9%減の449.8億ドルであった。仕出地別では中国が4.3%減の143.2億ドルとなったほか、バングラデシュが5.2%減、インドネシアが4.9%減といずれも5%前後の減少となったが、ベトナムが6.2%増の65.2億ドルと増加した。

繊維製品輸入実績（1～7月）

(100万ドル)

繊維製品計				うち衣類			
仕出地	2016年	2017年	前年比(%)	仕出地	2016年	2017年	前年比(%)
中国	21,414	20,697	-3.3	中国	14,958	14,319	-4.3
ベトナム	6,519	6,868	5.4	ベトナム	6,143	6,522	6.2
インド	4,395	4,527	3.0	バングラデシュ	3,232	3,042	-5.9
バングラデシュ	3,363	3,186	-5.2	インドネシア	2,854	2,713	-4.9
インドネシア	2,987	2,834	-5.1	インド	2,323	2,328	0.2
世界	60,324	59,465	-1.4	世界	45,849	44,976	-1.9

(出所) 米商務省

・企業動向

INVISTAはサウスカロライナ州Camdenのナイロン66工場を増設。投資額は6,500万ドルで、衣料用、スポーツ用、アウトドア用、防護服用向けを生産する。

ポリエステルメーカー3社(DAK Americas LLC、Nan Ya Plastics Corporation、America、Auriga Polymers Inc.)は、中国、インド、韓国、台湾、ベトナム製の細デニールポリエステルSに対するAD措置を講じるよう政府に申請した。同時に中国、インド両国政府が実施する輸出戻し税等の輸出補助金が米国の国内産業に損害を与えているとして、相殺関税措置を講じるよう申請した。

1.1) 欧州

・合繊生産

2017年1～7月期の合繊生産は産資用ナイロンFが8.4%増の7.0万トン、紡織用ポリエステルFが25.2%増の14.2万トン、産資用ポリエステルFが0.6%増の8.6万トン、ポリエステルSが3.0%増の41.5万トンといずれも増加した。

主要合繊の生産高（1～7月）

	(1000トン、%)				
	2014	2015	2016	2017	前年比
産資用ナイロンF	68.4	64.6	65.0	70.4	8.4
紡織用ポリエステルF	140.0	119.0	113.6	142.2	25.2
産資用ポリエステルF*	82.0	83.6	85.3	85.8	0.6
ポリエステルS*	388.3	385.0	402.8	414.8	3.0

(出所) CIRFS

(注) その他の品種は未発表。*ベラルーシを含む。

・企業動向

タイのIndorama Ventures PCL Group (IVL)は、欧州の大手ポリエステルメーカーTrevira GmbHを完全子会社としたと発表。IVLは、Treviraの株式25%を保有していたパートナーのSinterama S.p.A. IVLからその持分を買収した。

トルコの大手ポリエステルメーカーSasa PolyesterはHatey県に計画中のポリエステル工場への投資額を20億ドルから35.8億ドルに増額すると発表。建設期間も6年から8年に延長された。

合繊4品種需要実績(2017年4～6月)

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	23,715	107.5	100.3
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	38,293	100.2	100.6
	計 (輸入)	62,008 (35,261)	102.9 (107.9)	100.5 (106.5)
輸出 (原糸、加工糸)		1,547	85.0	97.5
需要計		63,555	102.3	100.4
在庫		10,666	103.3	95.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	4,776	74.1	81.5
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	34,060	89.9	97.9
	計 (輸入)	38,835 (16,542)	96.9 (101.0)	105.7 (131.5)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		1,714	82.8	55.8
需要計		40,549	96.2	101.9
在庫		13,099	75.5	64.7

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2017年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,764	102.5	95.5
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,581	92.6	100.4
	計 (輸入)	22,345 (6,449)	94.9 (84.3)	99.1 (88.1)
輸出 (原糸、加工糸)		8,776	96.5	116.8
需要計		31,121	95.4	103.5
在庫		11,513	110.1	98.1

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2017年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	4,929	77.4	94.9
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,584	97.1	99.2
	計 (輸入)	6,513 (140)	81.4 (122.8)	95.9 (58.8)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		24,678	100.8	90.9
需要計		31,191	96.1	91.9
在庫		10,942	115.4	105.2

(注)国内需要の()内数値は輸入量